

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871000414
法人名	有限会社 土香里
事業所名	グループホーム 土香里
所在地	愛媛県伊予市大平字片山甲225-1
自己評価作成日	平成22年8月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員がキャリアアップのため、研修の参加や職員主体の勉強会などに力を入れている。利用者だけではなく、家族との関係も大切に、気軽にきていただけるように努力している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

日々の記録から、毎月、利用者の言葉や職員の気付きを抜き出し「やりたいこと、興味のあること、できること」をまとめ、利用者の状態に即した支援を行うためにアセスメントされている。「みんなにびったりのレクリエーション」とネーミングして利用者個々の支援内容を具体的に示して、名前とともに居間の壁に貼っておられた。 利用者の中には「一番風呂」を好まれる方、また遠慮して「最後に」とおっしゃる方もあるようで、利用者のそれぞれの思い等も大切に、利用者や相談しながら入浴を支援されている。又、入浴を嫌がられる方には、タイミングを見ながら声かけして「入ってみようか」という気持ちになるような声かけにも努めておられる。時には、夜間に入浴される方もある。ラジオを聞きながら入浴されたり、歌を歌ったりされる方もある。
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19) 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 土香里

(ユニット名) 木の花

記入者(管理者)

氏名 河本 圭仁

評価完了日 平成22年 8月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			管理者と職員により作成した理念であるが、具体的な実践に向け、日々努力が必要だと思う。	
			(外部評価)	
			事業所の理念にもとづき、今年度は『その手、その言葉に「心」を込めて』と事業所の目標を決めておられる。ユニット目標や、さらに月目標も立てて、より具体的に日々取り組めるようにされている。今年度末には新たに事業所の理念を作成したいと、現在、職員会議等で話し合われている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			お祭り、町内清掃、地区運動会など、利用者と共に行き来し、地域と繋がりながら暮らしている。	
			(外部評価)	
			法人代表者は、組内の集会等にも出席して「事業所で出来る事は、お手伝いしますので、声をかけてください」と発信しておられ、地域の秋祭りには、職員がお神輿を担ぐことになっていた。7月の運営推進会議後には、地域の方達との親睦会を行われ、職員は「一人暮らしの高齢者は、何かあったらホームに連絡をください」と伝えられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			代表者は、地域の方々が集まる組内の集会への参加、また、運営推進会議において、認知症に対する理解や支援などを説明している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議で出された意見等については、次回で、議題に取り上げるなどの対応を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>今年度から、地域の方のご意見で、開催場所を地区の集会所に変更された。会議に参加されていた方が知合いに声をかけてくださり、地元の方の参加が多くなっている。事業所では「事業所のことをさらに知ってもらいたい」と会議をすすめておられ、会議時「グループホームの本来の役割」を説明されたり、スライドショーで事業所の行事や様子を報告されたり、看取り支援の事例を発表しておられる。又、外部評価結果・家族アンケートの集計表を用いて報告して、意見交換をされている。会議時には、お弁当を用意され、食事をしながら報告を聞いてもらったりご意見をうかがうようにされている。市外のホームの方や職員も多数参加されて、会議の最後には、皆で唱歌「ふるさと」を歌っておられる。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議には、市の担当者の方の出席があり、良い評価をいただいているが、より協力関係を築くよう取り組みたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、市の担当者から、地域の小学生に認知症の理解を深めてもらうための絵本教室や、認知症サポーター養成講座への協力依頼をされている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束廃止委員会を設けている。現在、対象となる事例がないものの、内部勉強会を実施している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>車椅子を使用しておられる利用者の体がずれ落ちないように、座布団やクッション等を使って工夫されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者は、職員のストレスにも注意を払い、職員間のコミュニケーションにも努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の内部勉強会を行い、学んだ。代表者が、成年後見制度が必要と思われる利用者家族へ、説明を行うなどの支援を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、重要事項説明書及び契約書の内容を説明すると共に、疑問点などについて、説明を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議でも、話し合う機会があり、面会にこられた際も、意見を聞き、話し合い、解決するよう努めている。 (外部評価) 前回の評価結果を受けて、目標達成計画にも挙げ「病院受診の行き帰りや待ち時間を利用してご家族とお話して関係を深めたり、ご意見や要望を聞く」ように取り組まれており、毎月ご家族へお送りするお手紙にも、受診日を明記しておられる。事業所で餅つきを行った際には、ご家族に手伝ってもらったり、又、手打ちうどん作り等、ご家族も一緒に活動する機会も作っておられる。	事業所では、ご家族の声を大切にされており、声を多く聞かせていただきたいと考えておられる。今後もご家族との関係作りに取り組まれ、利用する立場から気付いたことやご意見を引き出していかれてほしい。又、運営推進会議に出席がむずかしいようなご家族や、ホームに足遠くなっているようなご家族の声等も聞けるような工夫も重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			カンファレンスにおいて、積極的に意見交換できる。また、会議以外でも、代表者、管理者に、意見を言うことができる。	
			(外部評価)	
			毎月、職員が交替で「自分が知りたいと思ったこと」をテーマに、資料等も準備して「成年後見制度」「ストレスのコントロール」「感染症」「看取り」等、勉強会を行っておられる。法人代表者は、職員が利用者と関わる時間を多く持てるよう、職員の体制を手厚くされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者も勤務に入っている。基本的に職員の給与に差はつけておらず、勤務希望は全て沿えるようにしている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			グループホーム協議会主催の研修会への参加や、月一回の内部勉強会を行い、勉強する機会を設けている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム協議会主催の研修で、同業者と交流する機会が持て、意見交換する場がある。他のグループホームの見学や運営推進会議にも参加する機会がある。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前には、出来る限りグループホームに立ち寄っていただくようにしている。入居するに当たり、不安でいっぱいな気持ちを理解し、寄り添うことに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>入居前から、出来る限りグループホームに立ち寄っていただき、職員とのコミュニケーションを大切にしている。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>本人、家族から、要望等の聞き取りはしているが、他のサービス利用も含めた対応には至っていない。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>暮らしを共にする者同士の、関係作りを大切にしていきたい。</p>
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>長期の入所になると、面会が少なくなる傾向がみられるため、本人と家族の絆を大切にするため、お手紙などで働きかけている。本人、家族共に、もっともっと大切に出来る関係作りをしたい。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>これまで以上に、その人その人が持っている周りの関係を、大切にしていけるよう努めたい。</p>
			(外部評価)	
				<p>市外の「生まれた家を見に行きたい」と職員と出かけ、お墓参りもされた。職員とご自宅に御詠歌の道具を取りに戻り、事業所で御詠歌を披露してくれる方もおられる。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) トラブルとなることもあるものの、利用者同士が、互いにいたわっている姿をみかけることもある。今以上に、利用者同士、職員との関係作りを大切にしていきたい。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も、足を運んでくださる家族がいらっしゃる。その後の相談等には至っていない。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 今以上に、一歩踏み込んだ本人の思いを、コミュニケーションの中からとらえていけるようにしていきたい。	
			(外部評価) 日々の記録から、毎月、利用者の言葉や職員の気づきを抜き出し「やりたいこと、興味のあること、できること」をまとめ、利用者の状態に即した支援を行うためにアセスメントされている。「みんなにぴったりのレクリエーション」とネーミングして利用者個々の支援内容を具体的に示して、名前とともに居間の壁に貼っておられた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしの把握に関しては、入居時に、本人、家族から聞きとりを行っているが、入居後、話の中から知ることも多く、職員間で情報が共有できるよう、これまで以上に、検討したい。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の思いを大切に、現状だけでなく、今後の状況も考えて対応していけるようにしたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>カンファレンスにて、個別ケアの課題や目標について、話し合っている。本人や家族の意見を取り入れ見直している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、利用者やご家族の言葉・日々利用者とのかかわる職員の気づき等を取り入れ、利用者個々の担当職員と計画作成担当者で話し合い、作成されている。「おいしいものが食べたい」とのご本人の願いに、ご親族が経営している飲食店に食事に出かけることを計画に取り入れておられた方もあった。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>普段の生活の中から、会話や一日の様子を記録に書き、必要な項目など、カンファレンスで話し合っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の声を聞き、行きたいところへ、可能な限り行くようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外出の機会などに、お店に立ち寄りたりして、豊かな暮らしが出来るように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>入居前からの馴染みのかかりつけ医を大切にし、定期受診している。医療が常時必要となる場合については、24時間対応の訪問診療に移行し、緊急時に対応出来るようにしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者のほとんどの方は、以前からのかかりつけ医に続けて診てもらえるよう支援されている。ご家族が受診に付き添われたり、ご家族に事業所に来ていただき、職員も一緒に同行されたり、時には、病院でご家族と待ち合わせをする場合もある。週3回透析をされる利用者もあり、職員が送迎されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>日常での特変などの場合は、必ず、看護師の指示をおおぐようにしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>病院関係者との情報交換を行いながら、家族との連絡も密にし、退院時には対応できるようにしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>病院関係者との情報交換を行いながら、家族との連絡も密にし、退院時には対応できるようにしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>重度化や終末期については、早期に、家族の意向を聞き取りながら、対応できるかどうか、医療関係者とも、話し合いを持ち、取り組んでいる。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>重度化や終末期については、早期に、家族の意向を聞き取りながら、対応できるかどうか、医療関係者とも、話し合いを持ち、取り組んでいる。</p>	
			(外部評価)	
			<p>事業所の看取りの指針に基づいて、ご家族、医師と話し合いを行い、利用者個別に看とりの指針を作成されている。ご家族からは「本人には告知しないように」「現在の病気に対する延命治療は要らない」等、さまざまな希望が出ているようだ。出来るだけ口から食事を摂ることを続けられるよう、ご家族からの希望もあり、夕食時、ご家族が食事の介助に来てくださる等、協力し合って支援されている。8月に職員主催で看取りの勉強会を行われたり、看取り支援を行う際には、ご本人の居室への訪問回数を多くして体位交換をされたり、室温等にも気を付けるようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急士による救命救急講習を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に、避難訓練、通報訓練を行い、災害時において、近隣の方に、早急に協力要請できるよう協力依頼を行っている。	
			(外部評価) 利用者の顔写真と連絡先をいざという時、すぐ持ち出せるよう玄関に用意されている。地域の方には、避難した際、利用者の顔写真を見て避難状況を確認していただいたり、避難場所での見守りをお願いされている。前回の避難訓練では、実際に緊急通報装置を使用し消防署に通報する訓練や、職員が利用者役になってシーツを使用して避難させる訓練を行ってみられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言語の部分で、一部の職員において、不適切な声かけがみられることがある。	
			(外部評価) 利用者の呼び方は、入居時に、ご本人ご家族にお聞きして希望によって、職員が利用者を「～ちゃん」と呼んでいる方もある。法人代表者は「大きな家族になりたい」との思いのもと運営に努力されており、毎月の勉強会の後、8月からは、法人代表者が「職員一人一人の人間性を高めたい」と、自己啓発の勉強会を行っておられる。	職員の利用者への声かけや対応・呼び方等、信頼関係のもと行われているだろうが、時に、全職員でケアを点検されたり、ご家族や運営推進会議時にもご意見や気付きを出していただきながら、事業所のさらなるケアサービスの質の向上に努めていかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「しっかりと待ってあげること」「選択肢を与えること」などによって、本人の自己決定を促すようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースにあわせるような支援をしているが、どうしても、職員の都合優先になっている場面がある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性の利用者であれば、本人の好きな色のマニキュアを塗ったり、お化粧をしたり、おしゃれができるようにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 無理なく出来る範囲のことを、手伝っていただいている。困難な場合においては、職員と共に行うことで、落ち込むことなく、楽しみながら行えるように支援している。	
			(外部評価) 梅干しやキュウリでからし漬を作り、その時のエピソード等もお話ししながら食べるようにされている。ご家族から食事の献立についての要望があったことがきっかけとなり、普段のホームの食事を運営推進会議で試食してもらう予定になっていた。誕生日には、手作りケーキでお祝いされているが、ケーキがお好きでない方の誕生日には、好きなお寿司をケーキの形に作って、ろうそくを立てお祝いされている。持病のある方もあり、味はうす味を心がけ、又、食が進まない方には、おにぎりにしたり、時間を置いてすすめたりされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 専属の栄養士によって、カロリー計算から献立をたてている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行うとともに、口腔体操を取り入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	なるべく肌にも良い布パンツを、使用して頂きたいため、パット等の大きさなど、個別に合ったものを、常に検討し、見極めて使用している。日中においては、三名の方が、紙パンツから布パンツに移行できた。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	毎日のヨーグルト摂取、水分補給などで、なるべく薬に頼らず、排便を促すように心がけている。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	本人の希望を聞きつつの入浴ではあるが、ほとんどが日中になるので、夜、寝る前などの入浴を希望する方がおられたら、随時対応していきたい。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	個別の生活パターンにより、いつでも休息して頂けるよう支援している。また、夜は、安心して眠れるよう静かな時間を過ごしていただけるよう心がけている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 新しく処方された薬については、医師の指示を受けた職員が申し送り表に記入し、他の職員にも、情報交換できるよう対応している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ひとりひとりに合った個人レクリエーションを、各担当者が考え、それを職員全員で実施している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 週一回の外出日には、季節に応じた外出ができるよう計画、実施している。また、希望があれば、その日以外も、外出するなど、個別外出も大切に、実施している。	
			(外部評価) 計画作成担当者や管理者は、フリーな立場で勤務されており、利用者が「行ってみたい」と希望される時には、実現できるような体制作りにも努められる。職員のアイデアで、県の歴史文化博物館に出かけた際には、展示物を懐かしそうに眺めておられる方や売店に売られている歌手や女優等のプロマイドをみて、詳しく教えてくださる方もあった。動物園では動物の赤ちゃんとふれあい楽しまれた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) まとまったお金は、事務所で管理している。お小遣いを自分で管理されている方もおられる。買いものをしたときは、職員が、お小遣い帳に、記入し管理している方もおられる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでもできるようにしているが、電話においては、深夜、早朝時の訴えは、家族の生活も考え、説明、納得していただき、迷惑のかからないぬ時間帯まで、待っていただくことはある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			玄関先に季節の音楽を流したり、リビングでウサギを飼い、利用者が居心地のよいように工夫している。エアコンの湿度や温度にも気を遣っている。	
			(外部評価)	
			玄関を入ると、音楽が流れており、ご家族からいただいた鈴虫の声も聞こえていた。動物がお好きな利用者がおられ、居間には、金魚やメダカ・ウサギを飼っておられる。調査訪問時には、利用者がお茶を運んでくださり「どうぞ」とすすめてくださった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			廊下にいすを置いたり、リビングの一角に、丸テーブルを置いたりして自由に座ってもらっている。	
			(外部評価)	
			写真を飾ったり、馴染みのものを置いたり、自由にしていただいている。家族に、もう一度お願いして、さらに馴染みのものを増やしていきたい。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			写真や花札を飾ったり、馴染みのものを置いたり、自由にしていただいている。家族に、もう一度お願いして、さらに馴染みのものを増やしていきたい。	
			(外部評価)	
			入居前に住んでいたところで、よく利用していた商店のカレンダーや入院時に職員と利用者から贈られた千羽鶴を飾っておられる方もあった。職員とトランプや花札をされる方やゆっくりとお好きなマンガ・週刊誌を読まれる方もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			なるべく歩いてもらえるよう、いすの配置を変えたり、ご自分の部屋や共用の場所が、すぐわかるように、名札などを取り付けている。	